

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

Vol.18

2004.MAY

発行日/2004年5月20日(年4回)

NPO法人 長野都市経営研究所

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0936 長野市岡田町178-2 長野バスターミナル会館3F TEL 026-223-7900 FAX 026-223-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail : nupri@nupri.or.jp

発進！ エコール・ド・まつしろ。 全国の注目に応える 魅力的な地域づくりを 全力で支援。

2004
松代イヤー
座談会



4月を迎え、いよいよスタートした「エコール・ド・まつしろ」が、全国から大勢の来訪者、観光客を受け入れながら、順調な滑り出しを見せています。一過的な観光イベントとは一線を画し、長期的に松代の魅力をアピールしていくこうとする取り組みが好評のうちに発進したことで、運営に携わる関係者や地元で来訪客を受け入れる皆さんの意気も一層高まり、松代はかつてない活気に沸いています。

そこで今回は、約1年にわたり「松代イヤー」の中心的な立場で準備、支援にあたってきた鷲澤正一市長、市川浩一郎NUPRI理事長、樋口博工コール・ド・まつしろ2004実行委員会事務局次長、倉石和明長野青年会議所理事長にお集まりいただき、鷲澤幸一松代イヤー支援部会長の司会により、現状の手応えや今後の展望について話し合っていました。長野市長室で行われた座談会の模様をお届けします。

■「遊学城下町」としての松代 その新しい魅力

司会 約1年にわたり準備を進めてきた「エコール・ド・まつしろ」が、この4月、いよいよスタートしました。それぞれの立場で準備や仕掛けに携わってきた皆さんは、まずまずの滑り出しに胸をなで下ろすと同時に、今後の具体的取り組みについて、新たな意欲を抱いておられることと思います。まずは「エコール・ド・まつしろ」に対する今の思いをうかがってみましょう。

市長 そもそも「松代イヤー」は、景気低迷が長引く中、地域を活性化させるために行政でできることはいかか模索する中で出てきた発想でした。本来的には「ものづくり」をベースに地域の商工業が活気づいていくのが理想なのですが、それでは現状へのカンフルとなるような急激な効果を見込むのはむずかしい。そこ



鷲澤正一長野市長

で今は「観光」をメインに据えるべきだという結論に達しました。それも、従来の善光寺一極型の観光ではなく、長野観光の新しい牽引役として「松代」という地域に改めて光を当てようと考えたわけですね。

松代は、長い歴史の中で、ある意味、取り残されてきた地域とすることができるといえるでしょう。それゆえ史跡、街並み、城下町らしい風土など、貴重な資源がそのままの形でそっくり残っています。ボランティアの方々や松代見歩きを讀んで、改めてすごい、素晴らしいと感動したものです。「エコール・ド・まつしろ」では、それらの資源を今までのように観光物件として一方的に紹介・宣伝するのではなく、生涯学習の場となる「大人の学校」というとらえ方でアピールしました。それが多くの皆さんに新鮮と感ぜてもらえたのでしよう。今のところ外部からの観光客の入り込みがきわめて順調と聞いていますが、まずは外より中、つまり「長野市民が松代を愛する」ことが、活性化を継続させていく上で最も大切だと感じているところです。

樋口 今まで、長野市民でさえ「松代に行ったことがない」という人が意外に多かったのではないのでしょうか。試しに、この春、新たに長野市に採用された新職員にアンケートをとって見たのですが、松代に3回以上行ったことがあると答えたのは、50人中わずかに3人でした。まず地元の人間が魅力に感じなければ、外の方々に魅力を発信するのはむずかしい。その点で、今回「エコール・ド・まつしろ」の皮切りに行われた「松代城復元春まつり」は、市民が松代へ足を運び、松

座談会参加者

鷲澤正一

長野市長

市川浩一郎

NUPRI理事長

樋口 博

エコール・ド・まつしろ2004実行委員会事務局次長

(長野市産業振興部 部主幹)

長野青年会議所理事長

倉石和明

松代イヤー支援部会長 (司会)

鷲澤幸一

松代イヤー支援部会長 (司会)



市川浩一郎
NUPRI理事長

代を知る非常にいい機会になったと思いますね。
市長 観光客はもちろん、市民の注目を集めるための仕掛けもかなり行って来たつもりです。ポスター、パンフレット、のれんなど、センスよく仕上がった販促物があちこちで目を引いていますね。多くの皆さんの協力ののおかげで、インパクトの強いものができあがったと思いますよ。また、童門冬二氏の小説『幕末の明星―佐久間象山』も、この4月にタイミングよく発刊されましたし、NHKの大河ドラマ『新選組!』でも、佐久間象山を通じて松代が紹介されるといった、ありがたい後押しもあります。さらに、地元の方々の意識高揚を兼ねて募集した「エコール・ド・まつしろ倶楽部」には、すでに900人以上の人がボランティア登録をしているそうです。地域の人々が松代という場所を舞台にさまざまな形で自己実現を果たそうとし、なおかつ外から来る人々に対し、「おもてなしの心」を発揮しようとしているわけですね。オリンピックの資産としてのホスピタリティとは別に、伝統の中で培ってきた長野の人々のあたたかな心を継承し、外へアピールしていくいい機会になるかと思えます。それが根づくことによつて、松代の、ひいては長野の「ファン」が増えてくれることを、大いに期待しているのです。

います。ところが今回、市長の号令で地域が一躍注目され、プロのプランナーをはじめ市の関係者、青年会議所など、外の人々の働きかけに触発されて、地域が活性化に向けてにわかに関心が始まりました。地域としては初めての、活性化への高揚感に満ちたうねりのようなものを実感しているところなんです。しかも、単なる観光施策ではなく「生涯学習の場」という発想が実に新鮮であり、素直に共鳴できます。地元の人間としてこの機会を大いに活かし、活性化を実現させていきたいと切望するとともに、NUPRIとしても、「広域」の視点で地域を結ぶ活動を具現化させていくための端緒ととらえ、さらに積極的に「エコール・ド・まつしろ」を支援していきたいと考えています。

倉石 昨年、創立50周年を迎えた長野青年会議所では、51年目の新たな取り組みとして何ができるかを模索していました。JCとしては、善光寺を中心とする門前町の町づくり長年取り組んできた実績があります。その成果を踏まえつつ、そこに、新たに「城下町・松代」の視点を加え、門前町と城下町を結ぶことができないかと検討を始めていたところへ、「エコール・ド・まつしろ」の情報が飛び込んで来たのです。まさに千載一遇と、さっそく「松代コラボレーター」を発足させました。

ところが、発足当初はこちらの意気込みに対し地元の方々の反応が実に消極的で、調査や話し合いの段階で尻込みされてしまう場面が多く、何をどうしたらいいか途方に迷うことが多々あったのも事実でした。そこで、観光の主要要素である「見る」「買う」「食べる」について、地域の皆さんと一緒に見直すことから地道な検討を始め、特に地域の弱点とされる「食」の分野に関し、新たな提案をしようと取り組んできました。それが「まつしろ遊食プロジェクト」です。

■地域の活性化には 新しい「名物」が必要だ!

司会 長野市全体に言えることですが、「食」の魅力に乏しいというのは、しばしば各方面か

ら指摘されることであり、市民も大いに自覚している分野だと思います。松代における新しい「食」への取り組みは、非常に興味深いですね。

倉石 求心力のある飲食施設を創るという発想もありました。それはそれで魅力的ですが、新たな店舗や施設をオープンさせても、その運営や経営に汲々とするのでは、松代全体のイメージに影響するばかりか、長い目で見た活性化に貢献できず、本来の目的を果たせません。そこで「まつしろ遊食プロジェクト」では、地域で広く提案できる「名物メニュー」を検討することにしました。松代を「魅力ある遊食城下町」と位置づけ、地元飲料組合の協力も得て、个性的で魅力的な「遊食」、つまり「食事を通じた交流」を楽しめるような地域にしていきたいと考えているわけです。

松代にはすでに「長芋」という名物があり、よく知られてはいますが、メインディッシュとしてはどうしても弱い。そこで、検討の結果、飼育、素材調達、調理まですべてを地元でできる「地鶏」がピックアップされました。すでに地元からの引き合いもきて、具体的検討に入っています。地元の各飲食店で「名物」となるような地鶏料理を提供するほか、松代発の食材として、地域の皆さんが気軽に購入できるように販売ルートも検討中です。4月29日に開催の「魅力ある遊食城下町松代シンポジウム」で正式に発表し、当面は、秋の真田まつりの折に弁当などによって具体的な献立を提供することを目標に、計画を進めています。

市長 確かに「食」は松代に欠けている要素だと以前から感じていました。小布施のように「食」の要素が充実していないと、継続的な集客を見込みづらなのは事実でしょう。「食」の名物づくりは、ぜひ進めていただきたい。しかし、鶏インフルエンザ、BSEなどによって食肉のイメージ低下が懸念されている時だけに、安全性への対応を怠りなく、細心の注意と万全の管理のもとに進めていただくよう強く要望します。

倉石 その点は十分考慮しておりますのでご安心ください。5年先を見据えた長期的で綿密な

計画に基づいて進め、専門家を巻き込んでじっくり取り組んでいますので、ぜひ、その成果にご期待ください。

市長 それから、「地域の同業者みんなが足並み揃えて仲よく発展」という図式は、一見うまくいきそうですが、実はなかなかうまくいかないのが商売の現実だと、私は認識しています。厳しいようですが、地域の中で競争が生まれ成長するもの、淘汰されるものが出る中で、商品やサービスがさらに磨かれ、洗練され、全体の活性化につながっていくという事態が起きてくることも、冷静に意識しながら進めていってほしいと思います。



倉石和明
長野青年会議所理事長

市川 地域に「名物」を創るという発想は、活性化に欠かせないものと考えます。新しい味の名物には大いに期待したいですね。一方、「売る」という要素に関しても、松代らしい名物を検討中です。

もちろん従来の「みやげもの」の発想ではなく、生涯学習の場にあさわしい、松代オリジナルのクラフト的、アートの作品を販売していく考えです。たとえば、その作家の作品を見たり買ったりすることを目的に、遠くても松代を訪れたくなるようなもの、ということですね。その舞台のひとつとして「松代文化財ギャラリー展」を予定しています。

樋口 八ヶ岳で成功している「アートツーリズム」が、ひとつの参考例になるでしょう。どこでも買えるみやげものではなくて、ちょっと高くても、松代まで来ないと手に入らないという一点主義的なもの、感性のある女性の心を刺激



樋口 博
エコール・ド・まつしる2004実行委員会事務局次長

するようなものを、と考えているのです。

倉石 女性の旅人への視点は重要だと思いますね。私たちが地鶏の献立を考える上で、女性を意識したお弁当を企画しています。そのほか、食の関係で最近交流を持っている放送作家の加瀬清志さんからは、「エコール井」などという提案も出ています。

樋口 今回、「エコール・ド・まつしる」のロゴマークを自由にデザインしたオリジナル開発の商品を作ってくださいと町の皆さんに相談したところ、菓子、地酒、手拭い、携帯ストラップなど、魅力的な商品が多数開発されています。これもまさに、松代に求めている買えないものですので、ギャラリー展と併せ、これも「買う」の分野の強力な戦力となるでしょう。

■継続的な活性化を進めるための「キックオフ」として

司会 4月に発進した「エコール・ド・まつしる」は、11月までの予定で長期にわたって開催されます。これからの課題は何だとお考えでしょうか。

樋口 一番は、一過性のイベントに終わらせないということですね。

実は、NHKの『新選組!』もそうですが、「エコール・ド・まつしる」のプロモーション活動に際しては、思いがけない偶然がいくつも重なりました。PRと誘客のために全国の各方面に向け、積極的に「ボタンかけ」を行ってきたわけですが、たとえば5月の横浜の観光キャンペーンのように、持ちかけてみたら「日米和

親条約150周年」というタイミングにぴったりだったという具合に、かけたボタンの一つひとつが期せずしてみごとに全部かかってしまったのです。正直言って50%成功すればいいという予想で始めたプロモーションだったのが、100%という結果となり、戸惑いもありましたが、おかげで、今、実にいいタイミングで松代が全国に知られる機会になっています。

プロモーションにあたっては、単なるイベントとしてではなく、「長野オリンピック」のようにさまざまな要素を包含したひとつの大きな名称というか「ブランド」として「エコール・ド・まつしる」を取り上げてもらえるよう努力してきました。その成果は今、確実に出てきていると思いますが、それを一過的に終わらせず、息の長いブランドとして育て上げ、「旅」と「学び」を求める全国の人々にとって「松代」が愛すべき「目的地」として記憶されるよう努力していくことが必要でしょう。

市長 今まで静かな町だった松代に、今はある意味、ムチを入れている状態と言えるかもしれません。だが、あえて進めていかなくてはなりません。一時的な集客を想定した「思いつき」や、場当たり的な事業を積み重ねていくのではなく、たとえ地道でも息の長い継続性のあるプロジェクトに育て上げ、来訪者やリピーターが徐々に増えていくよう働きかけていくことが重要だと考えます。「松代イヤー」そのものは今年1年のプロジェクトですが、あくまでもキックオフにとらえ、これから時間をかけて少しずつ進化させていくというスタンスを持ち続けなくてはいけないと思います。10年後には、小布施に負けない、多くの人々の交流に満ちたエリアとして、松代の名前が人々の口にのぼるようになってほしいと思いますね。

樋口 小布施も10年、20年という歳月をかけて現在の状態を培ってきました。じっくり時間をかけることは必要です。そのために今回、「エコール・ド・まつしる倶楽部」という長期的な取り組みに耐えられる組織を作りました。また、「ながの観光コンベンビュロー」が前に出てもらうことにより、観光業としての体制も整えられた。両者が車の両輪となって、今後、松代観

光を展開させていくという構想です。「遊学城下町」としての松代のブランド性も、さらに時間をかけて育んでいきたいと考えています。

倉石 城下町の歴史ゆえか、松代の人々は長い間、保守的で閉鎖的と言われてきたように思います。実際、先ほどもお話ししたように、「エコール・ド・まつしる」の実施にあたっては、当初は消極性が前に出ていました。しかし、今は違います。外からの刺激にさらされて、地域の人々自身が「変わろう!」「もつと輝こう!」という意気込みを見せ始めているのを、一緒に活動しながらしみじみと実感している昨今です。今は一部の関係者の意気込みかもしれませんが、でも、これが大きくなることで地域全体が活性化していくんだと思いますね。

樋口 ここにはマスコミの力も大きく働いていると思いますよ。今、松代は全国的に注目される地域になっています。テレビ、新聞、雑誌をはじめ、ニュースや観光関係の枠を越えたいろんなメディアによって好意的に取り上げられ、光を当てられているのです。住んでいる皆さん自身がそれを否定なく自覚させられている。そして、マスコミで紹介されたのを見た来訪者が続々とやって来る。そういう地域に住むことの誇りが、反応として表れてきているのではないのでしょうか。

市川 そうですね。素晴らしいことだと思いますね。それと、従来の一般的な観光施策だと、週末や祭日にどっと人が押し寄せて、暇なウィーク

デーをどうするか悩む、ということになってしまっているのが、「エコール・ド・まつしる」の企画はどれも「土日に何万人来てほしい」というような意図ではなく、平日でも何でも常人が松代を訪れ、散策や体験を楽しめるような



取り組みになっています。その点が画期的であり、地元の皆さんにとっても、継続していくことが絵に描いた餅で終わらない期待につながっているのではないかと思いますね。

また、中学生の剣道大会決勝を歴史ある文武学校の道場で開催するとか、お茶会を殿様が使用した真田邸の広間で行うとか、文化財をただ見学するだけでなく体感できるという、きわめて魅力的で、しかも体験する人にとってステータスが高い施策が数多く計画されている点も、さらなる膨らみを期待させます。

NUPRIとしては、「エコール・ド・まつしろ」の継続を今後も支援しつつ、松代・善光寺・中心市街地を結ぶことによる、さらなる活性化への施策を併せて模索し、実現に向けて検討していきたいと考えています。

■人口が減っていく時代の都市のあり方を模索

司会 最後にNUPRIの会員や長野市民の皆さんへのメッセージをいただきたいと思えます。

市長 ようやくいい方向で動き出した松代ですが、現状のハード的な弱点として、町の真ん中を国道403号線が通り、大きな工事車両等が頻繁に通行している点が課題となっています。また松代城の堀の上流部水源の水が足りず、堀の水がよどみやすく、せつかく残っている全国に数少ない泉水路を観光資源として生かされていないという問題もあります。いずれも法制上における決まり事が壁になっており、即時解決はむずかしいのですが、なんとかいい方向に持っていけるよう行政としてさらなる努力を続けていきたいと考えています。

樋口 JRをはじめとする旅行会社とのタイアップも順調に進み、本格的な観光シーズンを迎えて、松代はこれからさらににぎわうことが予想されます。長野市街地と結ぶシャトルバスの運行、無料で自由に使える「みどりの自転車」、約30分で城下を一巡する乗り合いの「城下町タクシー」など、松代の散策をより便利にする交通インフラも充実させました。「エコール・

ド・まつしろ」をきっかけとして、より多くの皆さんに松代の魅力に触れていただきたいと思えますね。

倉石 JCとしても「食」のプロジェクト成功に全力を注ぎ、松代の魅力づくりをバックアップしていきたいと考えています。新しい味に期待ください。

市長 こうしたプロジェクトが息の長いものになっていくためには、「事業あるいは商売として成功する」ことが不可欠です。地域の皆さんや、関わった皆さんにメリットがなくては、やがて尻すぼみになってしまう。その点も考慮しながら、いい循環を定着させていきたいものです。

また、合併後の長野市を模索する上でも、今回の取り組みは非常に参考事例になると考えています。戸隠、鬼無里のように観光面で吸引力のある地域を結び、広域的で有機的な連鎖を持った、魅力ある新しい「物語」が描けるのではないかと、そしてそれが今後の観光の大きな要素になっていくのではないかと思うわけです。

物理的な人口が減っていくざるを得ない時代を迎えた今、「交流人口」を増やすことが、都市を活性化させる道にほかなりません。そのためにも今回の松代の施策を必ず成功させなくてはなりません。

市川 市長が「2004年は松代イヤーにしよう」と宣言した当時、NHKの大河ドラマの情報もなければ佐久間象山の本が出版されるという話もまだなかった。まして横浜の話などまったく知りませんでした。それが、今年になって追い風となるようなありがたい偶然が次々と起こり、絶妙のタイミングでスタートできたというのには不思議でもあり、勇気づけられることでもあります。この機を活かし、ぜひ成功へと導いていきたいと思います。

司会 「エコール・ド・まつしろ」の成功、そして松代ひいては長野全体の活性化に向け、NUPRIとしてもできる限り支援していく所存です。本日はお忙しい中、どうもありがとうございます。

「エコール・ド・まつしろ」イベント

春 学 期

- ・「川中島の戦いーいくさ・ころえ・祈りー」(第一期)
 <場所>長野市立博物館、真田宝物館
 <日程>4月29日～6月13日
- ・花人・川瀬敏郎 まつしろ花会
 <場所>旧松代藩文武学校
 <日程>5月15・16日
- ・松代藩文武学校旗争奪中学校選抜剣道大会
 <場所>旧松代藩文武学校、松代小学校、松代中学校
 <日程>5月22・23日

夏・秋 学 期

- ・信州まつしろ松代城復元夏まつり まつしろ薪能
 <場所>松代城 二の丸跡
 <日程>7月24日
- ・祇園祭
 <日程>7月17・18日
- ・「川中島の戦いーいくさ・ころえ・祈りー」(第二期)
 <場所>長野市立博物館、真田宝物館
 <日程>7月25日～9月5日
- ・松代文化財ギャラリー展
 <場所>旧松代藩文武学校他
 <日程>9月23～26日
- ・まつしろ遊学フェスタ(大文化祭)
 <日程>10月2～31日
- ・信州まつしろ松代城復元秋まつり(真田まつり)
 <場所>松代城跡周辺、松代町内
 <日程>10月9・10日

